

第57回 杉並区区民意向調査

区政に関する意識と実態

(要約版)

この小冊子は、令和7年5月に実施しました「第57回杉並区区民意向調査」の結果のあらましです。ご協力いただきました区民の皆様にご心からお礼を申し上げます。

詳細につきましては、区政資料室、区立図書館、地域区民センターに備え付けの調査報告書をご覧ください。

令和7年10月

杉並区 総務部 区政相談課

【調査のあらまし】

- ・調査対象 満18歳以上の区民
- ・対象者 無作為抽出による3,000人
- ・調査方法 郵送配布・郵送回収またはインターネット回答
- ・回収数 1,221人
- ・回収率 40.7%
- ・調査時期 令和7年5月

【小冊子の見方】

- ・nはその設問の回答者数を表しています。
- ・回答結果は件数を基数とした百分率で算出し、小数第2位を四捨五入してあります。このため、百分率の合計が100%にならない場合があります。
- ・複数回答の場合は合計が100%を超える場合があります。

【調査項目】

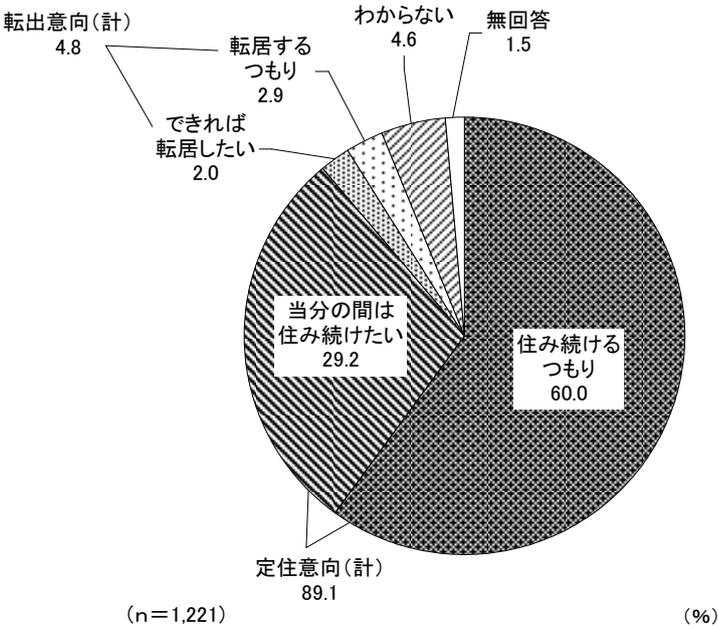
1. 定住性と生活環境について
2. 地域防災について
3. 駅周辺の満足度について
4. 商店街について
5. 環境に配慮した行動について
6. 健康と医療について
7. 人権について
8. 性の多様性について
9. 高齢者在宅支援について
10. 障害差別の解消について
11. 地域活動について
12. 子どもの権利・子育て支援について
13. 生涯学習について
14. 多文化共生について
15. 運動・スポーツについて
16. 区の情報について
17. 区役所のデジタル化について
18. その他の区政について

1. 定住性と生活環境について

定住意向

『定住意向（計）』がほぼ9割

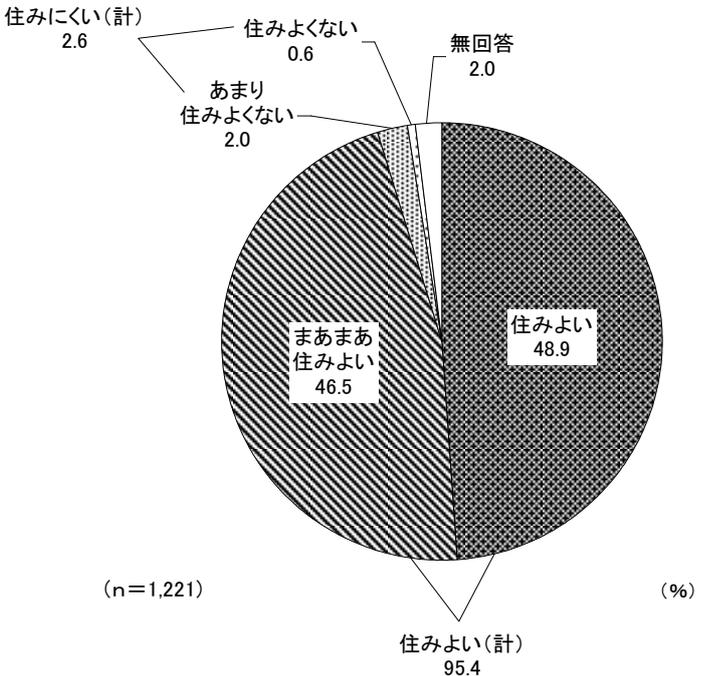
◆ 定住意向を聞いたところ、「住み続けるつもり」（60.0%）が6割で最も高く、これに「当分の間は住み続けたい」（29.2%）を合わせた『定住意向（計）』（89.1%）はほぼ9割となっています。一方、「できれば転居したい」（2.0%）と「転居するつもり」（2.9%）を合わせた『転出意向（計）』（4.8%）はわずかとなっています。



住みやすさ

『住みよい（計）』が9割半ば

◆ 現在の杉並区は「住みよいまち」だと思うか聞いたところ、「住みよい」（48.9%）と「まあまあ住みよい」（46.5%）を合わせた『住みよい（計）』（95.4%）は9割半ばとなっています。一方、「あまり住みよくない」（2.0%）と「住みよくない」（0.6%）を合わせた『住みにくい（計）』（2.6%）はわずかとなっています。

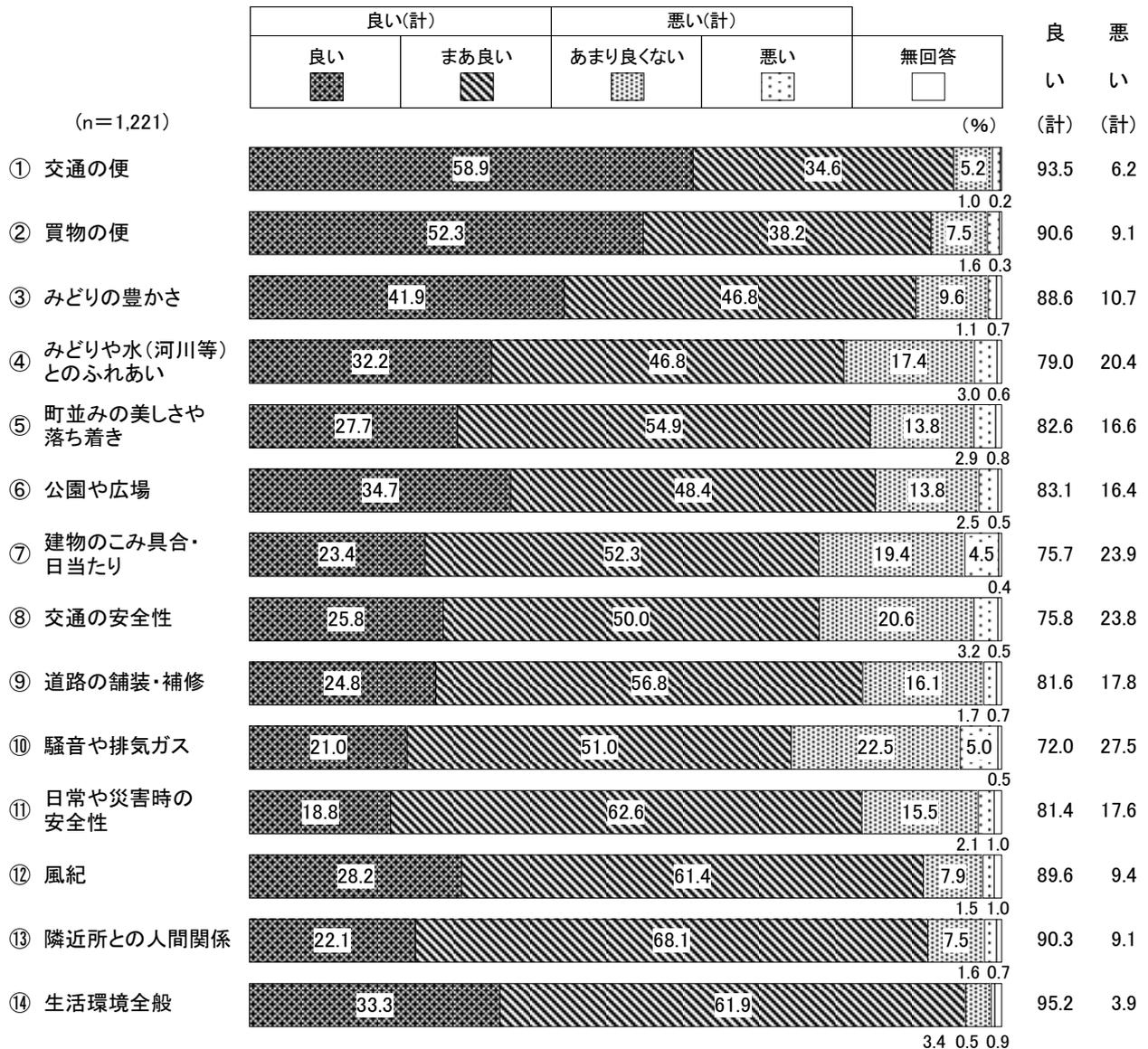


生活環境の評価

【生活環境全般】の『良い(計)』が9割半ばで高評価

◆ 自宅周辺の生活環境について聞いたところ、「良い」と「まあ良い」を合わせた『良い(計)』は【生活環境全般】(95.2%)が9割半ばで最も高く、次いで【交通の便】(93.5%)、【買物の便】(90.6%)、【隣近所との人間関係】(90.3%)、【風紀】(89.6%)などの順になっています。

一方、「あまり良くない」と「悪い」を合わせた『悪い(計)』は【騒音や排気ガス】(27.5%)が3割近くで最も高く、次いで【建物のこみ具合・日当たり】(23.9%)、【交通の安全性】(23.8%)などの順になっています。

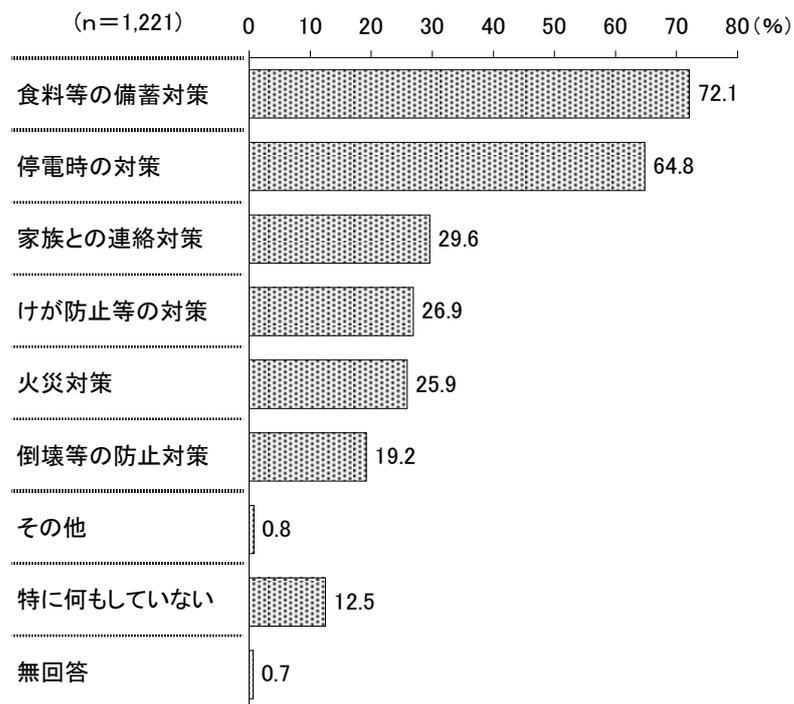


2. 地域防災について

家庭での防災対策の実施状況

「食料等の備蓄対策」が7割を超える

- ◆ 家庭で行っている防災対策を聞いたところ、「食料等の備蓄対策」(72.1%)が7割を超えて最も高く、次いで「停電時の対策」(64.8%)、「家族との連絡対策」(29.6%)、「けが防止等の対策」(26.9%)、「火災対策」(25.9%)などの順になっています。一方、「特に何もしていない」(12.5%)は1割を超えています。

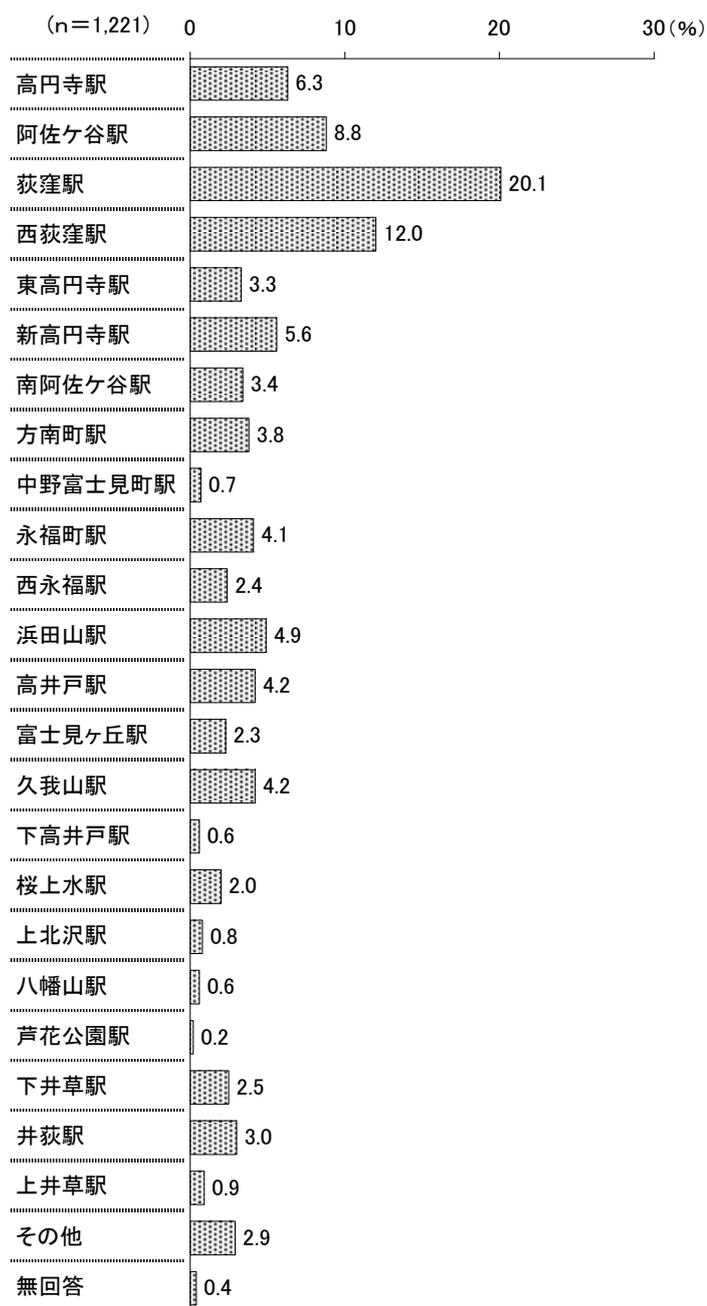


3. 駅周辺の満足度について

普段利用する駅

「荻窪駅」が2割

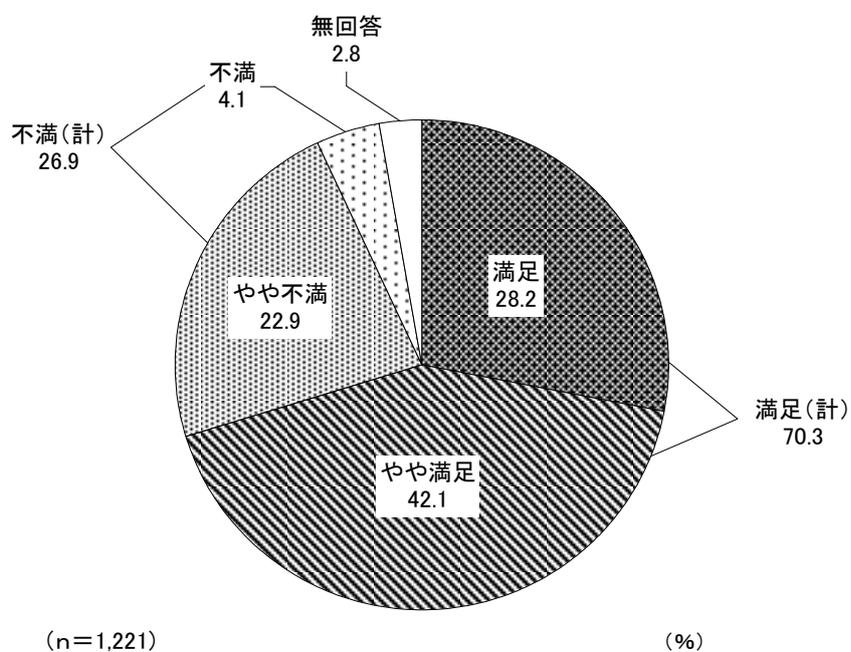
- ◆ 普段利用する駅を聞いたところ、「荻窪駅」(20.1%)が2割で最も高く、次いで「西荻窪駅」(12.0%)、「阿佐ヶ谷駅」(8.8%)、「高円寺駅」(6.3%)などの順になっています。



普段利用する駅周辺の満足度

『満足（計）』が7割

- ◆ 普段利用する駅周辺の満足度について聞いたところ、「やや満足」（42.1%）が4割を超え、これに「満足」（28.2%）を合わせた『満足（計）』（70.3%）は7割となっています。一方、「やや不満」（22.9%）と「不満」（4.1%）を合わせた『不満（計）』（26.9%）は3割近くとなっています。

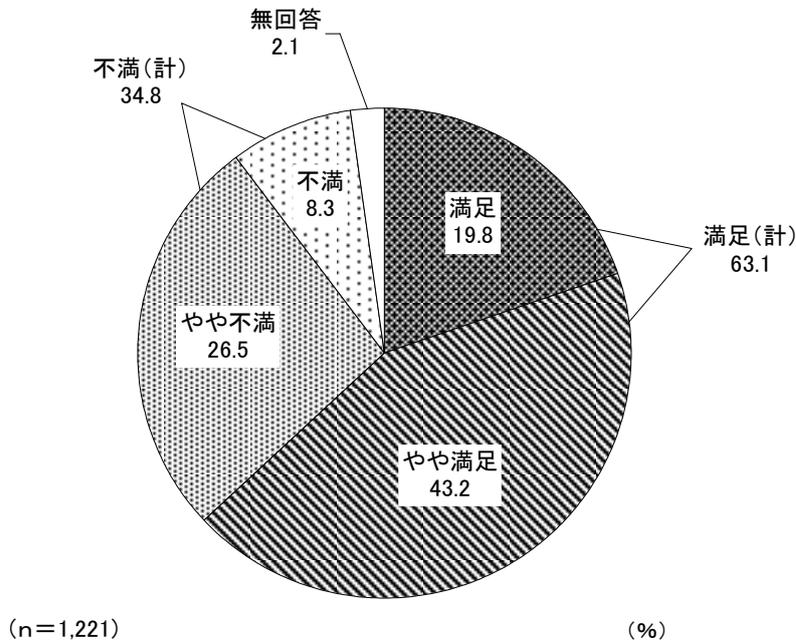


4. 商店街について

商店街の満足度

『満足（計）』が6割を超える

- ◆ 商店街の満足度について聞いたところ、「やや満足」(43.2%)が4割を超え、これに「満足」(19.8%)を合わせた『満足（計）』(63.1%)は6割を超えています。一方、「やや不満」(26.5%)と「不満」(8.3%)を合わせた『不満（計）』(34.8%)は3割半ばとなっています。

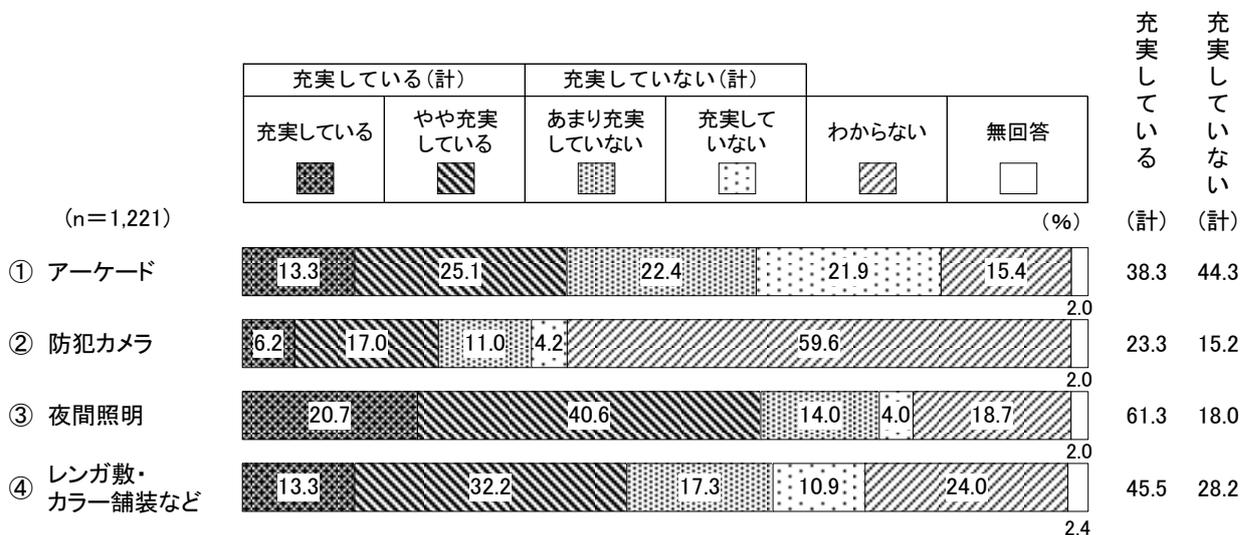


商店街の施設・設備の充実度

【夜間照明】は『充実している（計）』が6割を超える

- ◆ 商店街の施設・設備について聞いたところ、「充実している」と「やや充実している」を合わせた『充実している（計）』は【夜間照明】(61.3%)で6割を超え、【レンガ敷・カラー舗装など】(45.5%)で4割半ばとなっています。

一方、「あまり充実していない」と「充実していない」を合わせた『充実していない（計）』は【アーケード】(44.3%)で4割半ばとなっています。



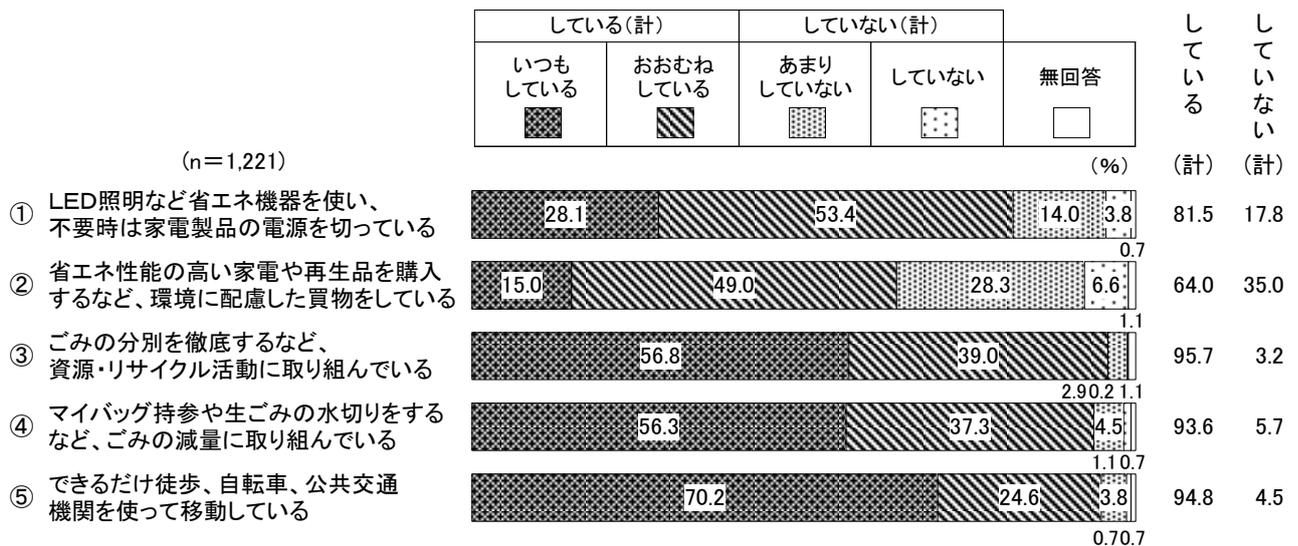
5. 環境に配慮した行動について

環境に配慮した行動への取組

【ごみの分別を徹底するなど、資源・リサイクル活動に取り組んでいる】と【できるだけ徒歩、自転車、公共交通機関を使って移動している】を『している』人が9割半ば

- ◆ 環境に配慮した行動への取組について聞いたところ、「いつもしている」と「おおむねしている」を合わせた『している（計）』と答えた人は、【ごみの分別を徹底するなど、資源・リサイクル活動に取り組んでいる】（95.7%）と【できるだけ徒歩、自転車、公共交通機関を使って移動している】（94.8%）でともに9割半ば、【マイバッグ持参や生ごみの水切りをするなど、ごみの減量に取り組んでいる】（93.6%）で9割を超えています。

一方、「あまりしていない」と「していない」を合わせた『していない（計）』と答えた人は、【省エネ性能の高い家電や再生品を購入するなど、環境に配慮した買物をしている】（35.0%）で3割半ばとなっています。

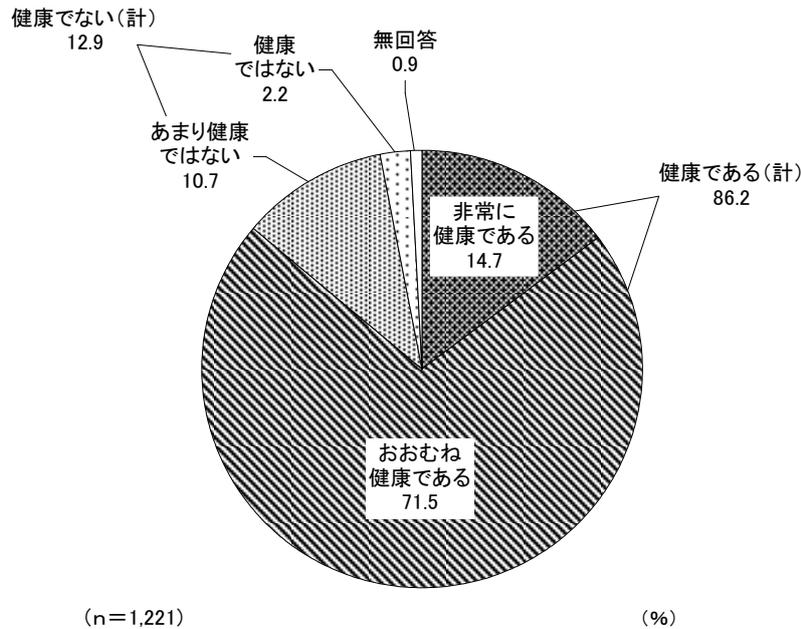


6. 健康と医療について

健康状態

『健康である（計）』が8割半ば

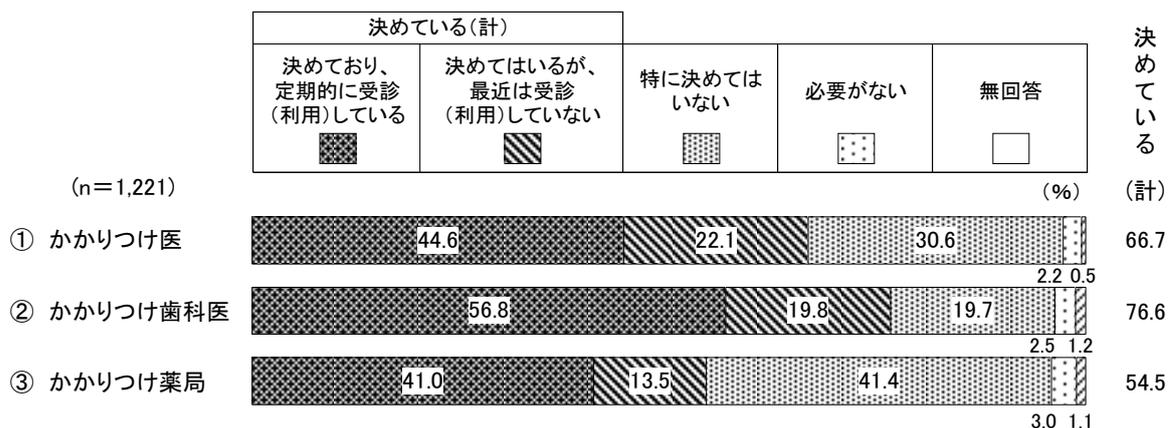
- ◆ 健康状態について聞いたところ、「おおむね健康である」（71.5%）が7割を超え、これに「非常に健康である」（14.7%）を合わせた『健康である（計）』（86.2%）は8割半ばとなっています。一方、「あまり健康ではない」（10.7%）と「健康ではない」（2.2%）を合わせた『健康でない（計）』（12.9%）は1割を超えています。



かかりつけ医療機関の有無

かかりつけ歯科医を『決めている（計）』人が8割近く

- ◆ かかりつけ医療機関を決めているか聞いたところ、「決めており、定期的を受診（利用）している」と「決めてはいるが、最近を受診（利用）していない」を合わせた『決めている（計）』は【かかりつけ歯科医】(76.6%)で8割近く、【かかりつけ医】(66.7%)で7割近く、【かかりつけ薬局】(54.5%)で5割半ばとなっています。
- 一方、「特に決めてはいない」は【かかりつけ薬局】(41.4%)で4割を超えています。

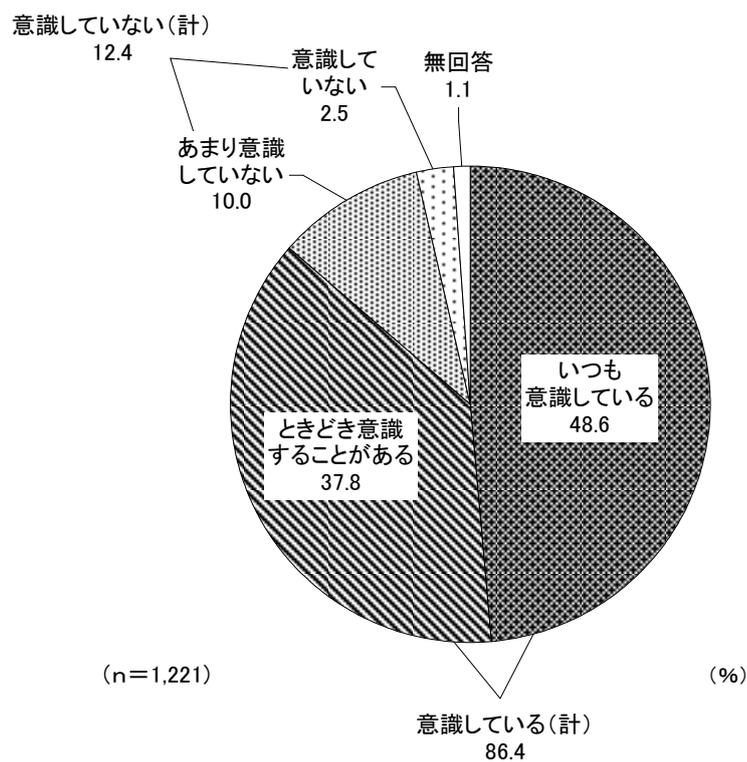


7. 人権について

人権意識

『意識している(計)』が8割半ば

- ◆ 人権を意識しながら生活しているか聞いたところ、「いつも意識している」(48.6%)と「ときどき意識することがある」(37.8%)を合わせた『意識している(計)』(86.4%)は8割半ばとなっています。一方、「あまり意識していない」(10.0%)と「意識していない」(2.5%)を合わせた『意識していない(計)』(12.4%)は1割を超えています。

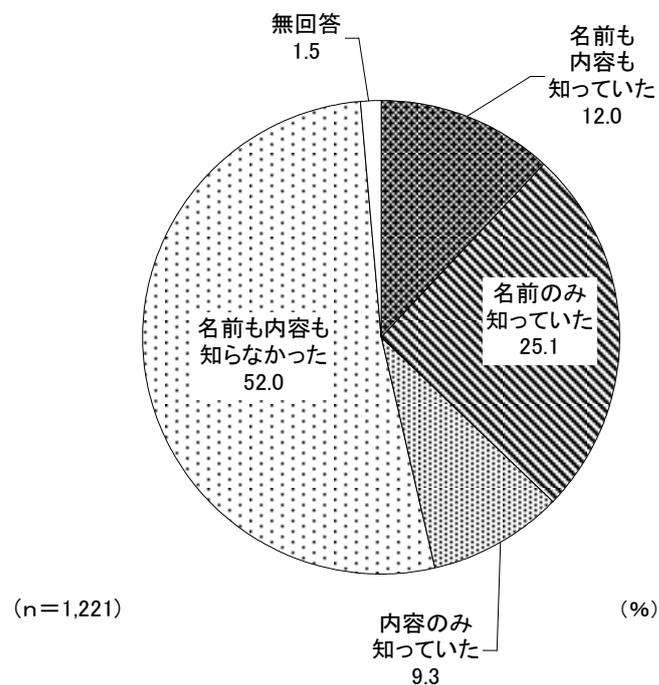


8. 性の多様性について

「性の多様性が尊重される地域社会を実現するための取組の推進に関する条例」の認知度

「名前も内容も知らなかった」が5割を超える

- ◆ 「性の多様性が尊重される地域社会を実現するための取組の推進に関する条例」について知っているか聞いたところ、「名前も内容も知っていた」(12.0%)が1割を超え、「名前のみ知っていた」(25.1%)は2割半ば、「内容のみ知っていた」(9.3%)は1割未満となっています。一方、「名前も内容も知らなかった」(52.0%)は5割を超えています。

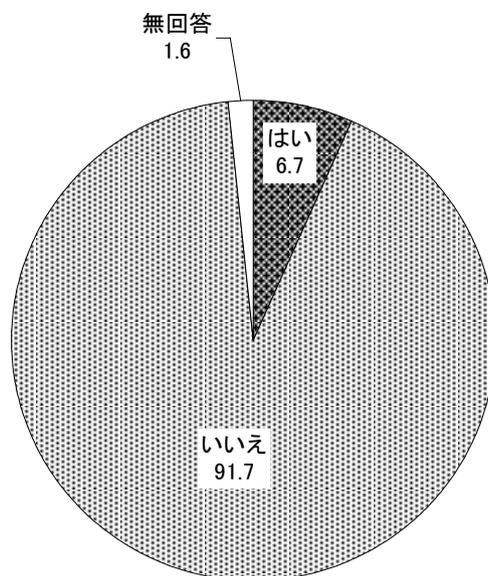


9. 高齢者在宅支援について

現在の介護状況

「いいえ」(介護をしていない)が9割を超える

- ◆ 現在、介護をしているか聞いたところ、「いいえ」(91.7%)が9割を超え、「はい」(6.7%)は1割未満となっています。



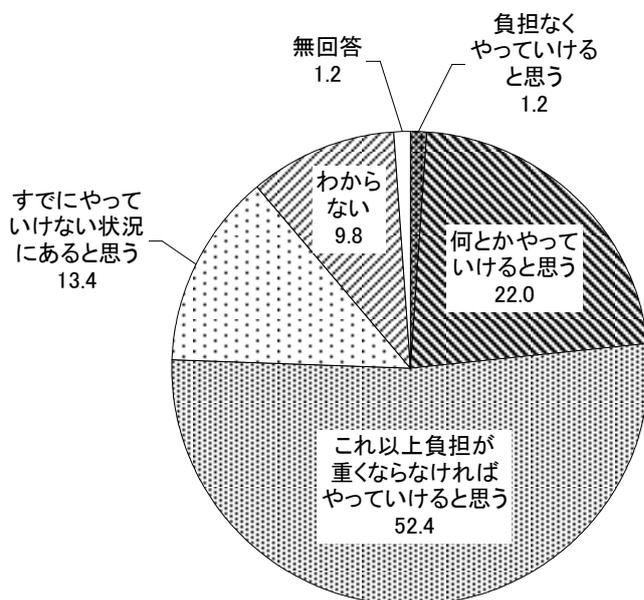
(n=1,221)

(%)

今後の在宅介護の見通し

「これ以上負担が重くならなければやっていけると思う」が5割を超える

- ◆ 現在の介護状況で「介護をしている」と答えた人(82人)に、今後の在宅介護の見通しを聞いたところ、「これ以上負担が重くならなければやっていけると思う」(52.4%)が5割を超えて最も高く、次いで「何とかやっていけると思う」(22.0%)、「すでにやっていけない状況にあると思う」(13.4%)などの順になっています。



(n=82)

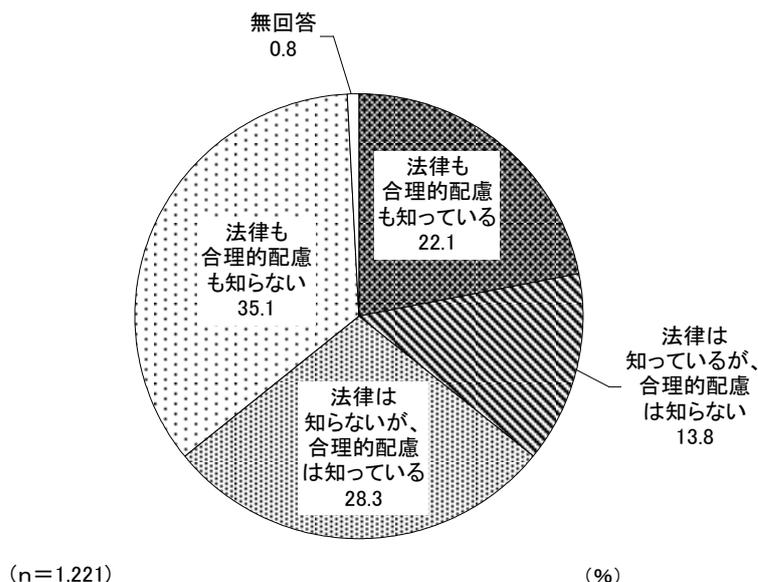
(%)

10. 障害差別の解消について

「障害者差別解消法」や合理的配慮の認知度

「法律も合理的配慮も知らない」が3割半ば

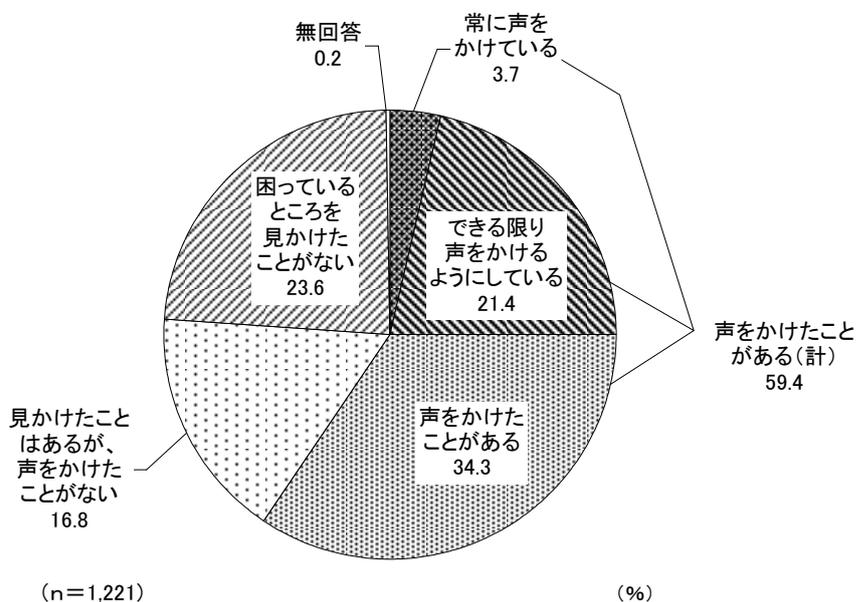
- ◆ 「障害者差別解消法」や合理的配慮について知っているか聞いたところ、「法律も合理的配慮も知っている」(22.1%)は2割を超え、「法律は知っているが、合理的配慮は知らない」(13.8%)は1割を超え、「法律は知らないが、合理的配慮は知っている」(28.3%)は3割近くとなっています。また、「法律も合理的配慮も知らない」(35.1%)が3割半ばとなっています。



障害のある方への声かけ

『声をかけたことがある(計)』がほぼ6割

- ◆ 障害のある方が困っているところを見かけた際に声をかけたことがあるか聞いたところ、「声をかけたことがある」(34.3%)が3割半ば、これに「常に声をかけている」(3.7%)と「できる限り声をかけるようにしている」(21.4%)を合わせた『声をかけたことがある(計)』(59.4%)はほぼ6割となっています。一方、「見かけたことはあるが、声をかけたことがない」(16.8%)は2割近く、「困っているところを見かけたことがない」(23.6%)は2割を超えています。

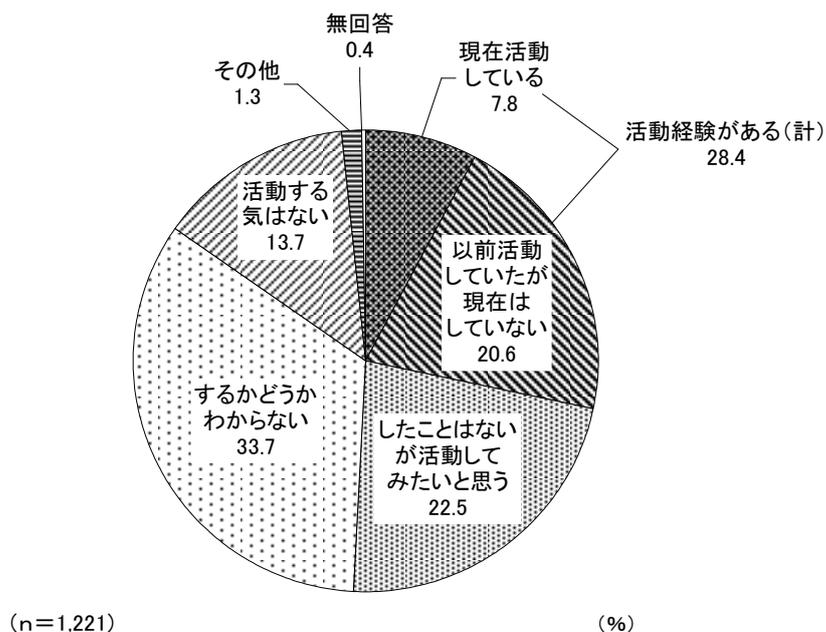


11. 地域活動について

ボランティア活動経験

『活動経験がある（計）』が3割近く

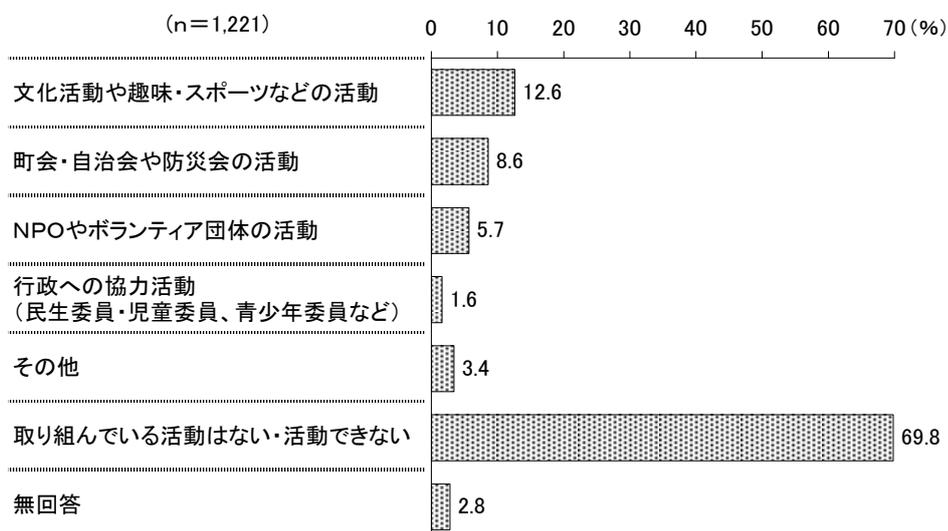
- ◆ ボランティア活動をした経験があるか聞いたところ、「現在活動している」(7.8%)と「以前活動していたが現在はしていない」(20.6%)を合わせた『活動経験がある（計）』(28.4%)は3割近くとなっています。「したことはないが活動してみたいと思う」(22.5%)は2割を超え、「するかどうか分からない」(33.7%)は3割を超え、「活動する気はない」(13.7%)は1割を超えています。



地域活動・社会活動参加状況

「文化活動や趣味・スポーツなどの活動」が1割を超える

- ◆ 参加している地域活動、社会活動を聞いたところ、「文化活動や趣味・スポーツなどの活動」(12.6%)が1割を超えて最も高く、次いで「町会・自治会や防災会の活動」(8.6%)、「NPOやボランティア団体の活動」(5.7%)などの順になっています。一方、「取り組んでいる活動はない・活動できない」(69.8%)は7割となっています。



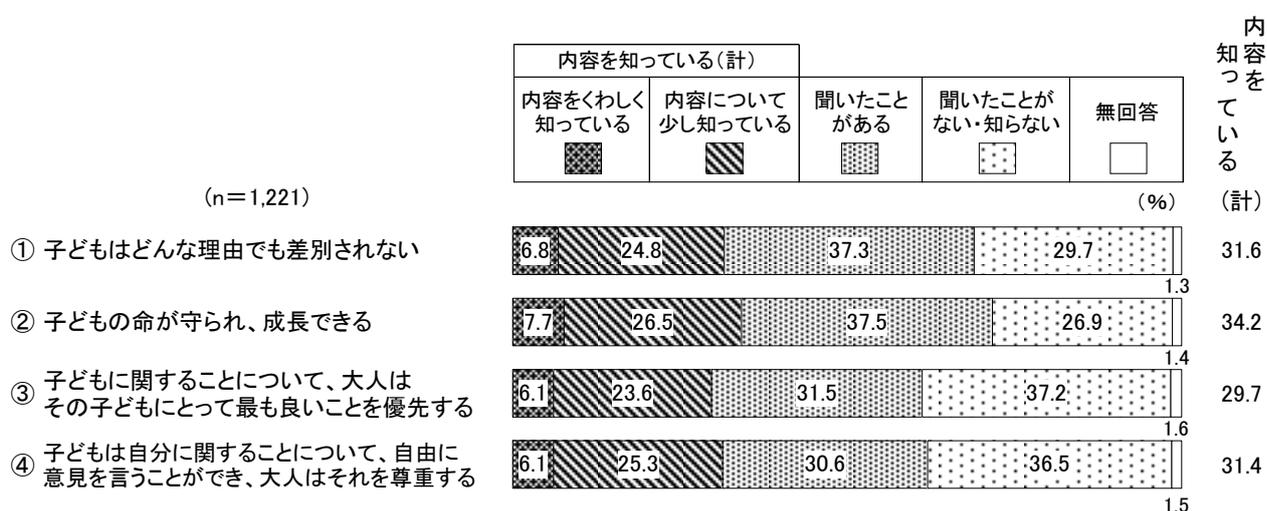
12. 子どもの権利・子育て支援について

子どもの権利の認知度

【子どもの命が守られ、成長できる】の『内容を知っている（計）』人が3割半ば

- ◆ 子どもの権利について知っているか聞いたところ、「内容をくわしく知っている」と「内容について少し知っている」を合わせた『内容を知っている（計）』は【子どもの命が守られ、成長できる】（34.2%）で3割半ば、【子どもはどんな理由でも差別されない】（31.6%）と【子どもは自分に関することについて、自由に意見を言うことができ、大人はそれを尊重する】（31.4%）でともに3割を超えています。

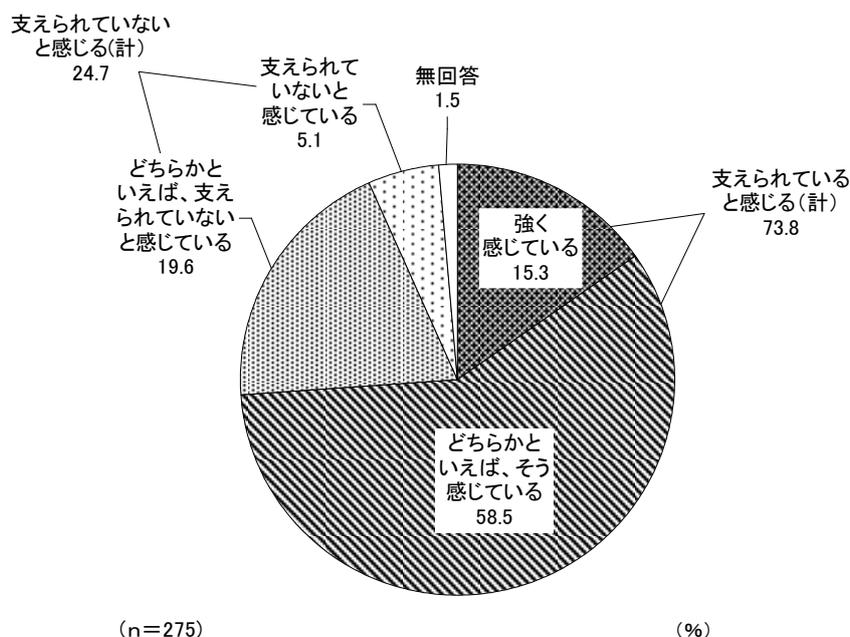
一方、「聞いたことがない・知らない」は【子どもに関することについて、大人はその子どもにとって最も良いことを優先する】（37.2%）と【子どもは自分に関することについて、自由に意見を言うことができ、大人はそれを尊重する】（36.5%）でともに4割近くとなっています。



地域の子育て支援についての意識

地域や社会に『支えられていると感じる（計）』が7割を超える

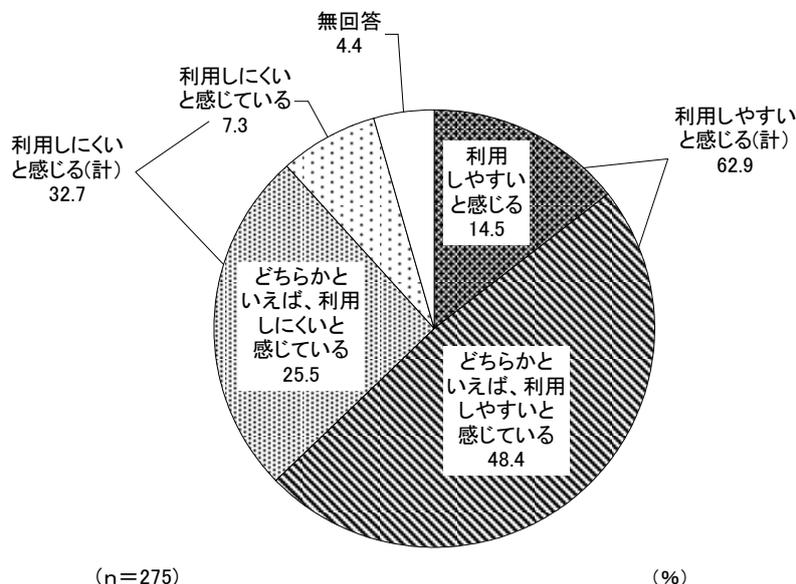
- ◆ 18歳未満の子どもがいる人（275人）に、子育てが地域の人に（もしくは社会で）支えられていると感じているか聞いたところ、「どちらかといえば、そう感じている」（58.5%）が6割近く、これに「強く感じている」（15.3%）を合わせた『支えられていると感じる（計）』（73.8%）は7割を超えています。一方、「どちらかといえば、支えられていないと感じている」（19.6%）と「支えられていないと感じている」（5.1%）を合わせた『支えられていないと感じる（計）』（24.7%）は2割半ばとなっています。



地域の子育て支援サービス等の利用しやすさ

『利用しやすいと感じる（計）』が6割を超える

- ◆ 18歳未満の子どもがいる人（275人）に、地域の子育て支援サービス・施設が利用しやすいと感じているか聞いたところ、「どちらかといえば、利用しやすいと感じている」（48.4%）が5割近く、これに「利用しやすいと感じる」（14.5%）を合わせた『利用しやすいと感じる（計）』（62.9%）は6割を超えています。一方、「どちらかといえば、利用しにくいと感じている」（25.5%）と「利用しにくいと感じている」（7.3%）を合わせた『利用しにくいと感じる（計）』（32.7%）は3割を超えています。

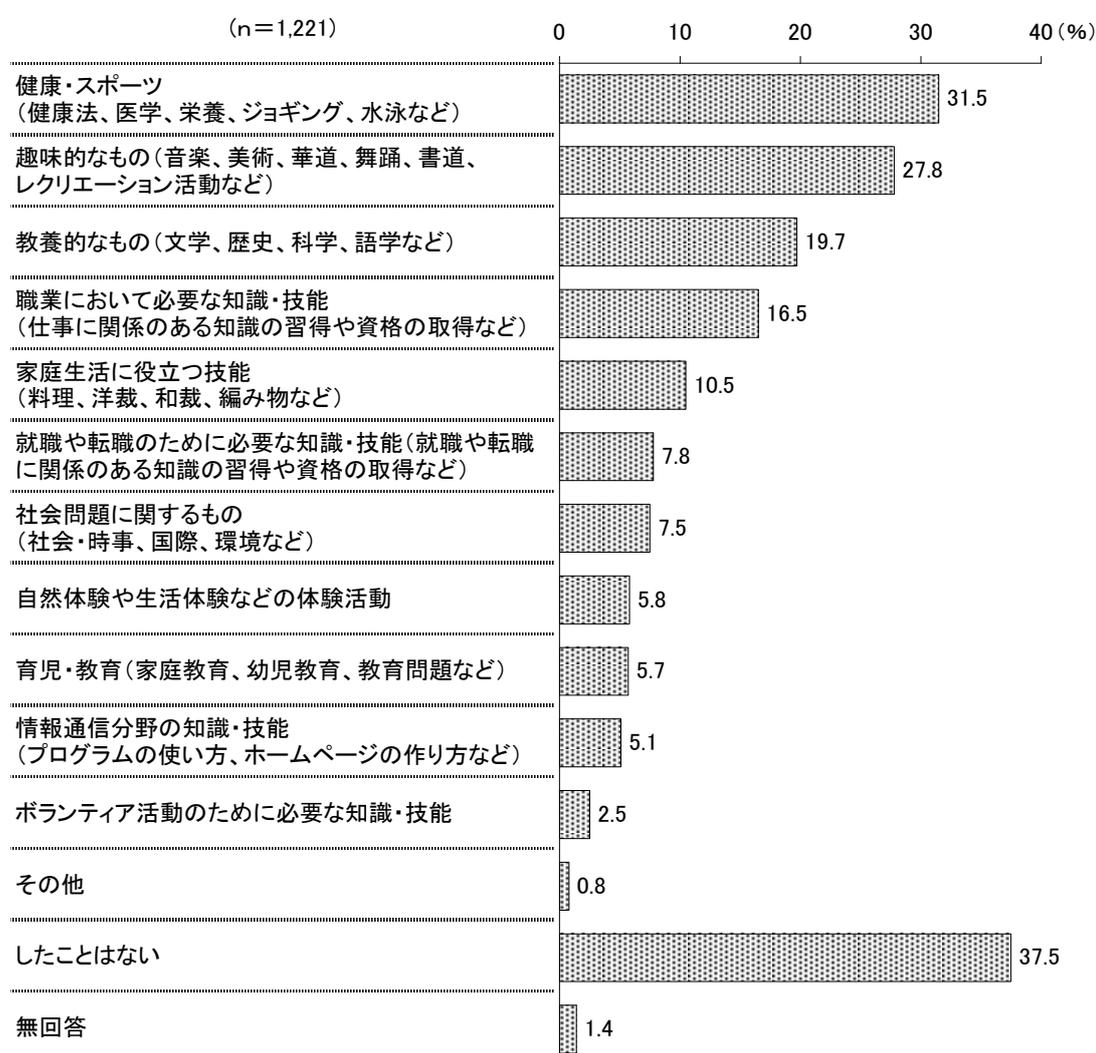


13. 生涯学習について

この1年間の生涯学習の実施状況

「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）」が3割を超える

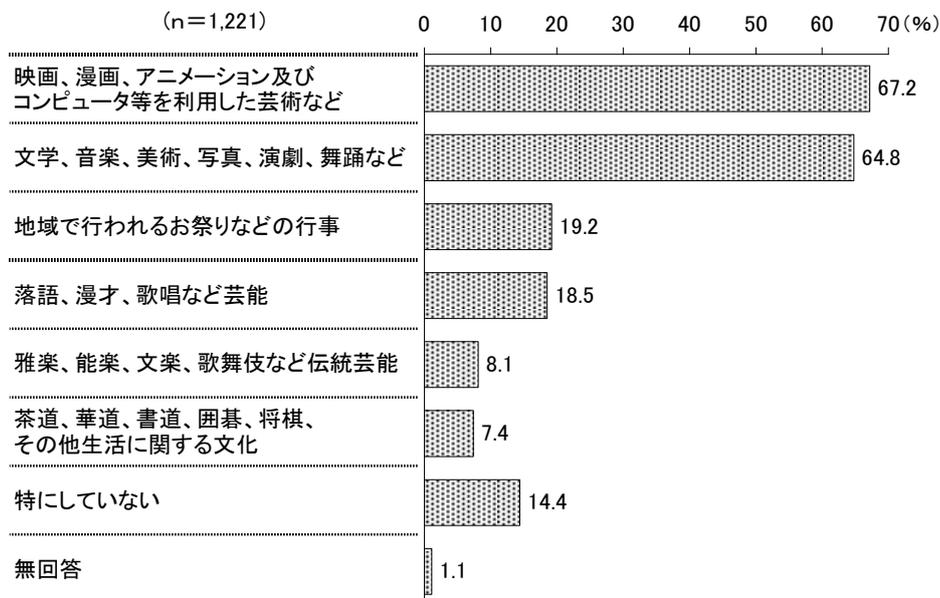
- ◆ この1年間の生涯学習の実施状況について聞いたところ、「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）」（31.5%）が3割を超えて最も高く、次いで「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」（27.8%）、「教養的なもの（文学、歴史、科学、語学など）」（19.7%）などの順になっています。一方、「したことはない」（37.5%）は4割近くとなっています。



文化・芸術鑑賞の有無

「映画、漫画、アニメーション及びコンピュータ等を利用した芸術など」が7割近く

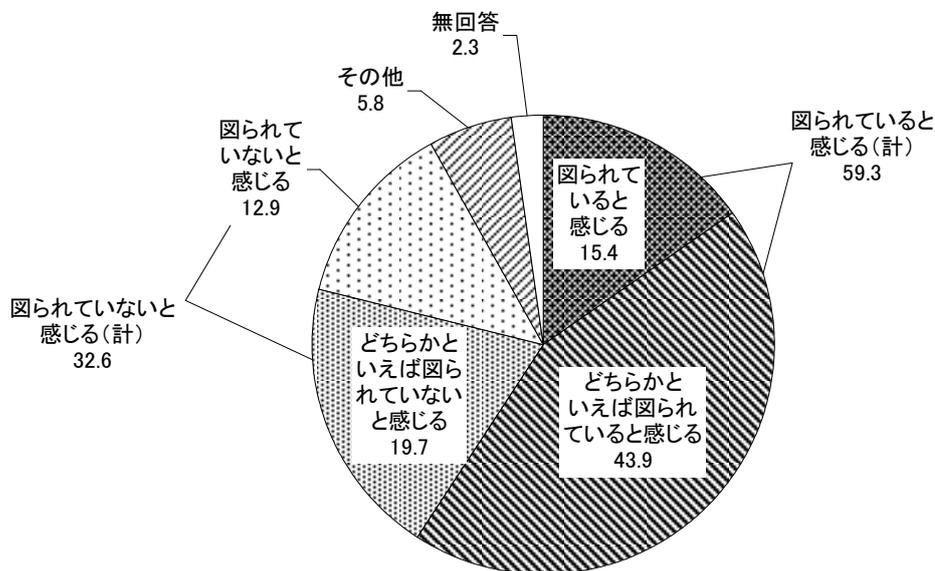
- ◆ 文化・芸術鑑賞の有無について聞いたところ、「映画、漫画、アニメーション及びコンピュータ等を利用した芸術など」(67.2%)が7割近くで最も高く、次いで「文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊など」(64.8%)、「地域で行われるお祭りなどの行事」(19.2%)などの順になっています。一方、「特にしていない」(14.4%)は1割半ばとなっています。



仕事と生活の調和に対する意識

調和が『図られていると感じる(計)』がほぼ6割

- ◆ 仕事と生活の調和が図られていると感じているか聞いたところ、「どちらかといえば図られていると感じる」(43.9%)が4割を超え、これに「図られていると感じる」(15.4%)を合わせた『図られていると感じる(計)』(59.3%)はほぼ6割となっています。一方、「どちらかといえば図られていないと感じる」(19.7%)と「図られていないと感じる」(12.9%)を合わせた『図られていないと感じる(計)』(32.6%)は3割を超えています。



(n=1,221)

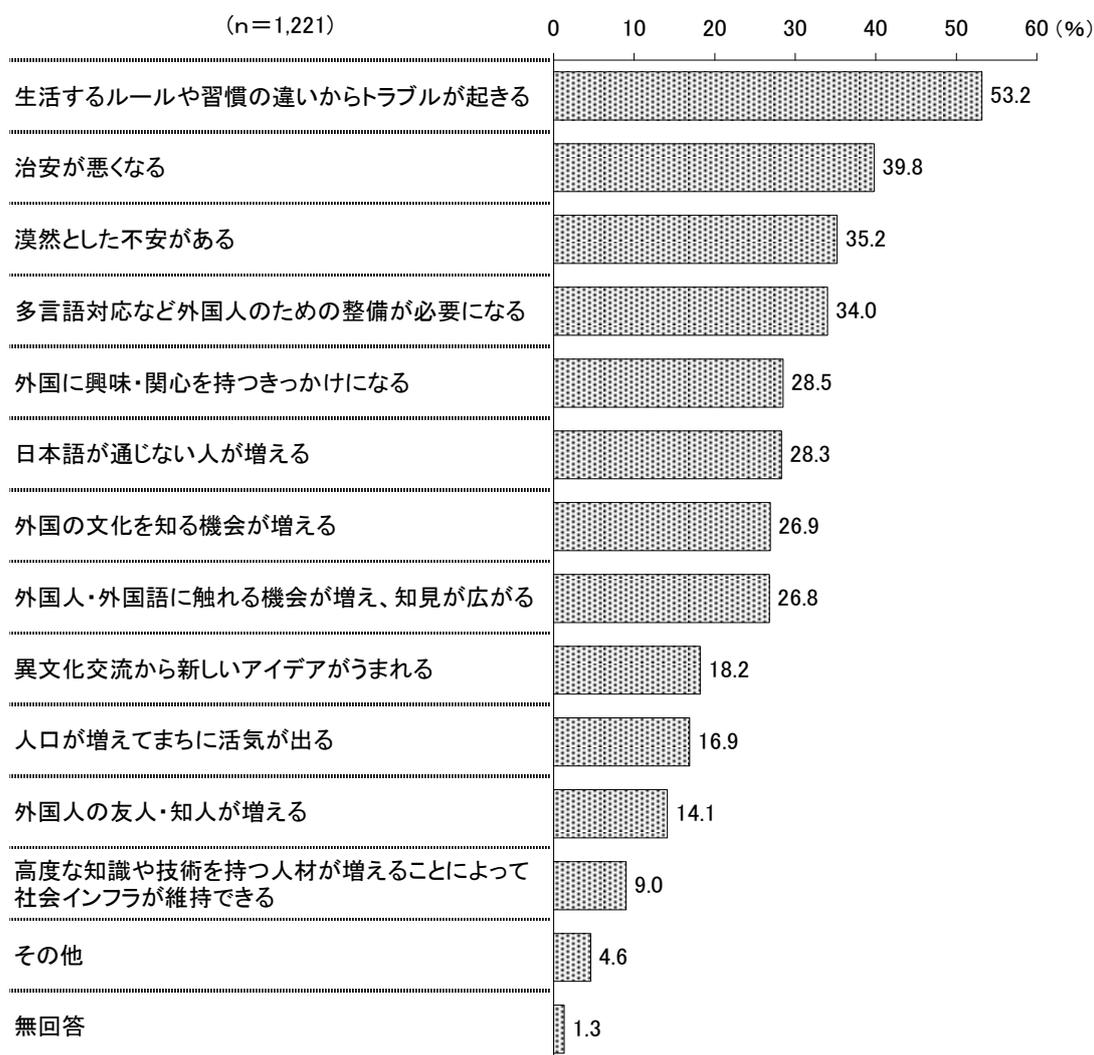
(%)

14. 多文化共生について

地域に外国人が増えていくこと

「生活するルールや習慣の違いからトラブルが起きる」が5割を超える

- ◆ 地域に外国人が増えていくことについて聞いたところ、「生活するルールや習慣の違いからトラブルが起きる」(53.2%)が5割を超えて最も高く、次いで「治安が悪くなる」(39.8%)、「漠然とした不安がある」(35.2%)、「多言語対応など外国人のための整備が必要になる」(34.0%)などの順になっています。

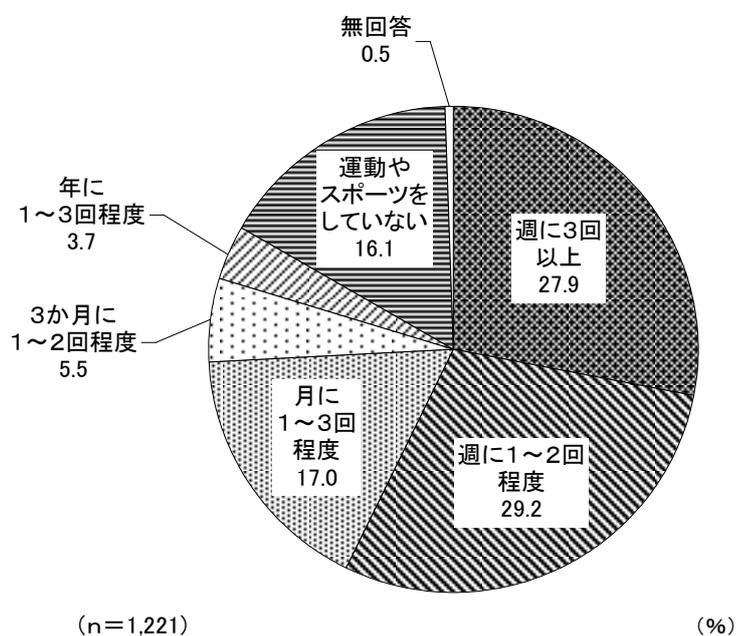


15. 運動・スポーツについて

この1年間の運動やスポーツの実施状況

「週に1～2回程度」がほぼ3割

- ◆ この1年間の運動やスポーツの実施状況について聞いたところ、「週に1～2回程度」(29.2%)がほぼ3割で最も高く、次いで「週に3回以上」(27.9%)、「月に1～3回程度」(17.0%)、「3か月に1～2回程度」(5.5%)、「年に1～3回程度」(3.7%)の順になっています。一方、「運動やスポーツをしていない」(16.1%)は1割半ばとなっています。

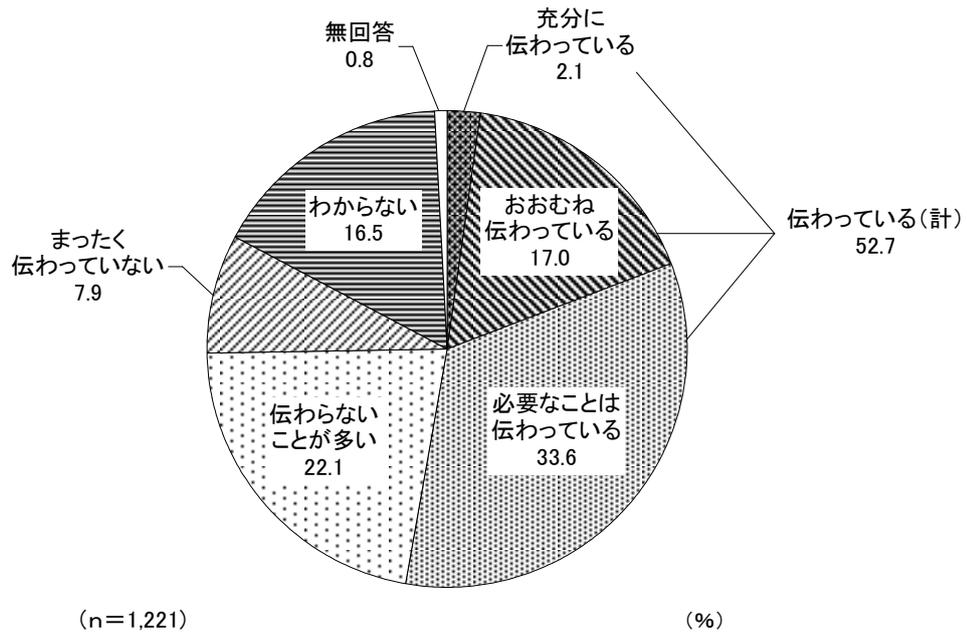


16. 区の情報について

区情報の伝達度

『伝わっている(計)』が5割を超える

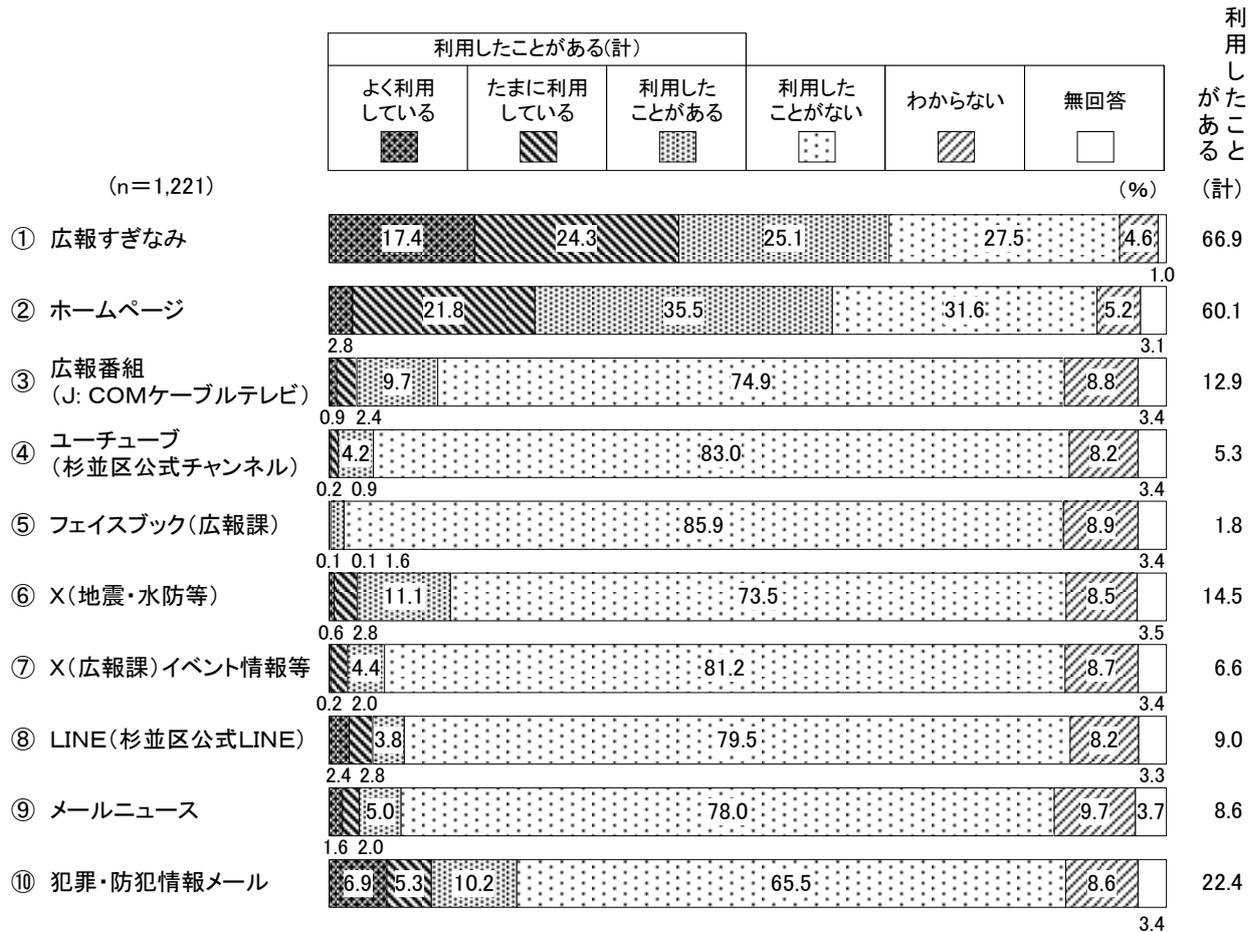
- ◆ 必要とする区の情報伝わっているか聞いたところ、「十分に伝わっている」(2.1%)、「おおむね伝わっている」(17.0%)、「必要なことは伝わっている」(33.6%)を合わせた『伝わっている(計)』(52.7%)は5割を超えています。一方、「伝わらないことが多い」(22.1%)が2割を超え、「まったく伝わっていない」(7.9%)は1割未満となっています。



区の広報媒体等の利用状況

【広報すぎなみ】を『利用したことがある（計）』人が7割近く

- ◆ 区の広報媒体等の利用状況について聞いたところ、「よく利用している」、「たまに利用している」、「利用したことがある」を合わせた『利用したことがある（計）』は、【広報すぎなみ】（66.9%）が7割近くで最も高く、次いで【ホームページ】（60.1%）、【犯罪・防犯情報メール】（22.4%）、【X（地震・水防等）】（14.5%）などの順になっています。

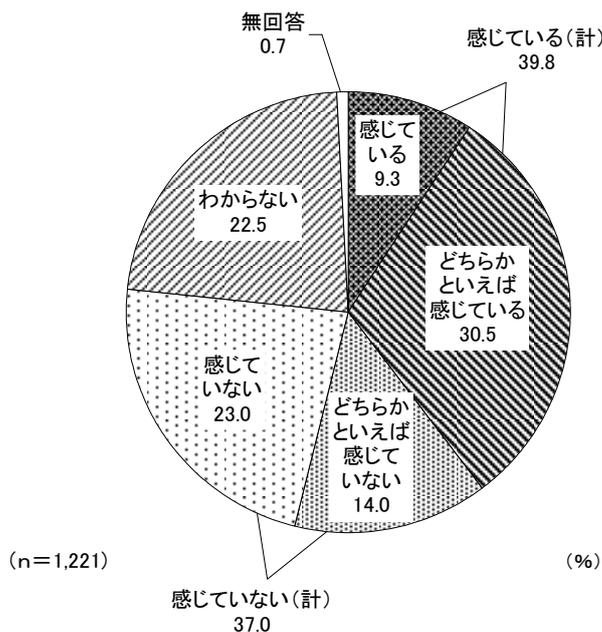


17. 区役所のデジタル化について

区のデジタル化の取組によって生活が便利になったと感じているか

『感じている（計）』が4割

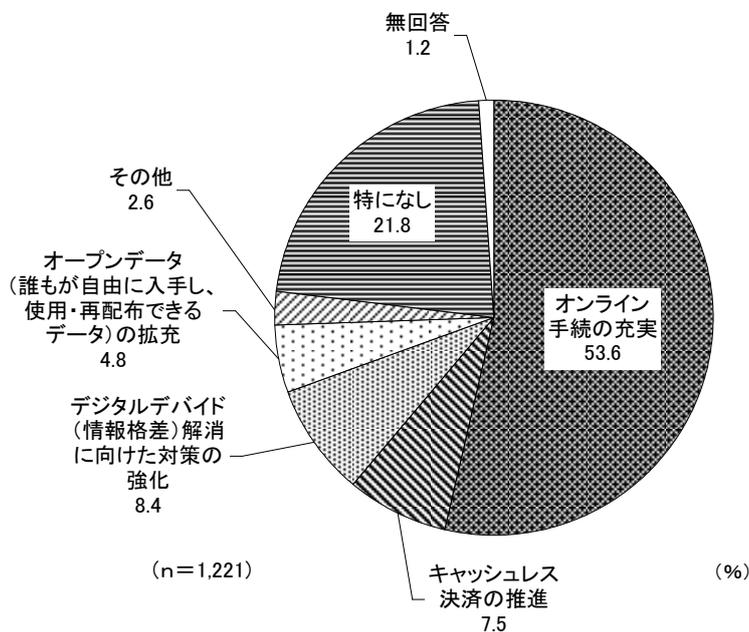
- ◆ 区のデジタル化の取組によって生活が便利になったと感じているか聞いたところ、「どちらかといえば感じている」（30.5%）がほぼ3割、これに「感じている」（9.3%）を合わせた『感じている（計）』（39.8%）は4割となっています。一方、「どちらかといえば感じていない」（14.0%）と「感じていない」（23.0%）を合わせた『感じていない（計）』（37.0%）は4割近くとなっています。



区のデジタル化の取組の中で期待すること

「オンライン手続の充実」が5割を超える

- ◆ 区のデジタル化の取組の中で期待することを聞いたところ、「オンライン手続の充実」（53.6%）が5割を超えて最も高く、次いで「デジタルデバインド（情報格差）解消に向けた対策の強化」（8.4%）、「キャッシュレス決済の推進」（7.5%）などの順になっています。

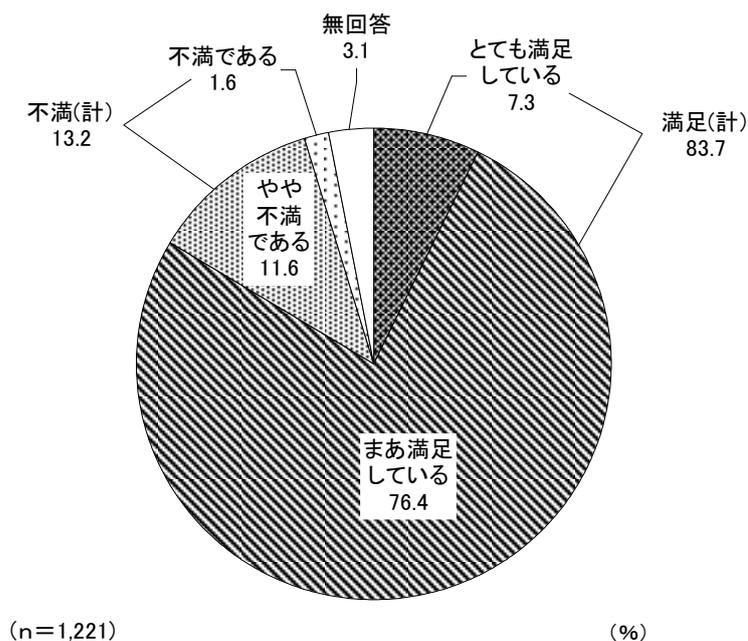


18. その他の区政について

区の事業やサービスの満足度

『満足（計）』が8割を超える

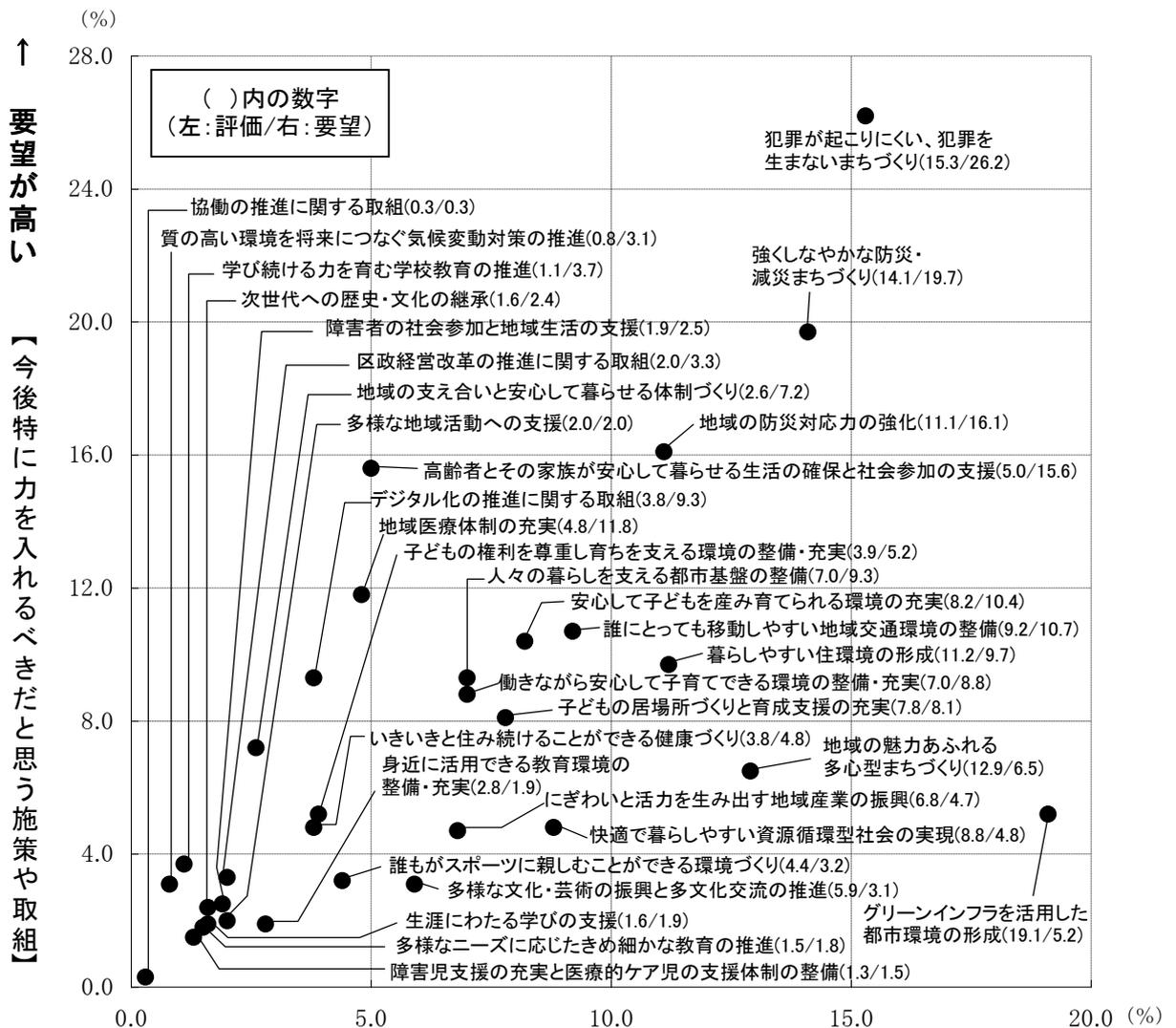
- ◆ 杉並区の事業やサービスの満足度を聞いたところ、「まあ満足している」(76.4%)が7割半ば、これに「とても満足している」(7.3%)を合わせた『満足（計）』(83.7%)は8割を超えています。一方、「やや不満である」(11.6%)と「不満である」(1.6%)を合わせた『不満（計）』(13.2%)は1割を超えています。



杉並区の施策や取組の評価と要望

施策や取組の評価では「グリーンインフラを活用した都市環境の形成」がほぼ2割
 施策や取組の要望では「犯罪が起こりにくい、犯罪を生まないまちづくり」が2割半ば

- ◆ 杉並区が力を入れていると評価できる施策や取組を聞いたところ、「グリーンインフラを活用した都市環境の形成」(19.1%)がほぼ2割で最も高く、次いで「犯罪が起こりにくい、犯罪を生まないまちづくり」(15.3%)、「強くしなやかな防災・減災まちづくり」(14.1%)、「地域の魅力あふれる多心型まちづくり」(12.9%)、「暮らしやすい住環境の形成」(11.2%)などの順になっています。
- ◆ 杉並区が今後特に力を入れるべきだと思う施策や取組を聞いたところ、「犯罪が起こりにくい、犯罪を生まないまちづくり」(26.2%)が2割半ばで最も高く、次いで「強くしなやかな防災・減災まちづくり」(19.7%)、「地域の防災対応力の強化」(16.1%)、「高齢者とその家族が安心して暮らせる生活の確保と社会参加の支援」(15.6%)などの順になっています。
- ◆ 力を入れていると評価できる施策や取組（施策や取組の評価）と今後特に力を入れるべきだと思う施策や取組（施策や取組の要望）を相関させた散布図は以下のとおりです。横軸が施策や取組の評価で、縦軸が施策や取組の要望です。このグラフでは、**施策や取組の評価が低く、施策や取組の要望が高い領域（左上方）にある項目が比較的住民ニーズが高いもので、今後の行政課題となるものと考えられます。**



【区が力を入れていると評価できる施策や取組】 評価が高い →

第57回 杉並区区民意向調査
区政に関する意識と実態
(要約版)

令和7年10月発行

発行 杉並区 総務部 区政相談課
東京都杉並区阿佐谷南1-15-1
電話：03-3312-2111 (代)

登録印刷物番号

07-0028



杉並区

実施 株式会社エスピー研
東京都千代田区飯田橋3-11-20
電話：03-3239-0071 (代)